

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0173800525		
法人名	株式会社イワクラ		
事業所名	グループホーム ゆーあい天馬②		
所在地	新冠郡新冠町字中央町17-11		
自己評価作成日	令和元年9月5日	評価結果市町村受理日	令和元年11月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=017380.0525-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	令和元年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは静かな住宅地(当社の分譲地)の一面に2ユニットで運営しています。近隣は新興住宅地であり新築の住宅も多く比較的若い世代も多いようで、子供の遊ぶすがたも見受けられます。当社もこの住宅地の中に賃貸マンションを所有しており、当ホームの職員も代用社宅として数名が居住しており緊急時には大変協力的な戦力となっております。この地域の中で生活を継続できるようホームの行事には、近隣の方々の参加を積極的に呼び掛けてきました。近年は沢山の参加もあり活動の成果も進んでいます。これからも気軽にホームに立ち寄って頂けることを望んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、日高管内新冠町の市街地に位置し、閑静な住宅地にある平屋建て2ユニットのグループホームである。JR新冠駅から徒歩圏内で、家族や友人・知人も訪問しやすい利便性のいい地区である。法人は、胆振日高管内を基盤として、道内を中心に全国的に展開している建材及び建設関連の大手老舗企業で、地元からの信頼が厚い。2つのユニットは道路を挟んで隣接して建てられており、それぞれ大きな住宅のような感じで、利用者も我が家に住んでいるような様子で、日中はリビングに寛いでゆったりと過ごしている。事業所主催の行事には家族や地域の方の参加も多数あり、特に夏祭りは100名位参加するなど地域の大きな行事になっている。また、避難訓練などの災害対策も地域の方の参加協力で協力体制が構築されており、特に町内に社宅があり、複数の職員が居住しており緊急時対応が可能である。ホーム内には、ゆっくりできる職員の休憩室があり配慮がされている。居室には、洗面台がありプライバシーに配慮しており、温もりを感じるホームである。これからも地域の認知症高齢者の事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらい
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念は掲げており、ホーム内や職員の休憩室などに提示しており管理者、職員はカンファレンスやミーティングなどで唱和し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例になっている夏祭りに近隣住民の参加も頂き、また、自治会役員の方のお手伝いもして頂き町伝統の太鼓などで、交流の場も広がってきています。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町のケア会議に参加し当ホームの現状の報告や他事業所の情報交換など連携をとり町発行の広報誌作成に携わりホームの内容を掲載し認知症の人の理解や支援方法などを地域に向けて活かしている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年、6回の運営推進会議では毎回ホームの現状の報告をして役所の方や福祉関連、自治会の方々の助言や理解をして頂き、今後の運営に生かし、ご家族にも会議議事録を通して理解を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎年、町主催の福祉関係事業所と副町長、町福祉課課長関係者にて懇談会を開催して各事業所よりの実情や取組を説明し大きな成果に繋がり、今後も定期的に開催していく事も確認しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや身体拘束委員会で拘束について例題をあげ話し合いをし取り組んでいる。又玄関の施錠は夜間帯のみとしており、契約時に防犯等の理由と説明し家族に了承を頂いている		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部での虐待についての研修があり全員参加を実施し常に事業所内で利用者の虐待が無いように十分な注意を払い見過ごされる事の無いよう防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町主催の研修などに参加し学んだ事をミーティング等で周知している。現在、権利擁護、青年後見制度を活用されている方はいないが必要が生じた場合に備えて活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族に十分な説明をし、理解を頂き締結をしている。また入居されても疑問や不安がないか来訪時に尋ね、理解や納得して頂けるように努めている。改定時は説明し文書にて同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の議事録を送付して、ご家族等の意見や要望など、来訪された時には聞き取りをしてミーティング等で話し合い家族の意見などがあれば運営に反映できるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等はミーティング等で集約をし幹部会議にて話し合い、その意見や提案を次回のミーティングに反映させ提案の困難な状況が生じた場合には当本社に状況を説明して意見を聞きながら対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の就業環境を向上させる為の整備として資格取得を目指す職員に対して自治体の助成金も活用して研修の費用も負担する支援規程も設けて積極的に資格取得に向けて支援する取組も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員の不足が続いている事もあり有資格者職員を確保する事は厳しい状況にあり事業所内で職員の力量を把握し各種の研修会等への参加を促し、その費用と時間を投資しても人材を育てる機会を設けて取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業各社の代表者とは不定期に各問題や課題が発生した場合には相互訪問等で意見交換や問題提起を共有して情報交換を通して、サービスの質を向上させていき今後の活動のにも努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から聞くことが難しいことが多く利用前面談調査時に本人の様子から要望を見出す等の工夫や家族に聞くなどして本人が安心できる関係作りに努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前面談調査時に出来ること出来ないことを伝えと共に家族に不安な事や困っている事を聞き希望等を尋ねたりするなど、話しやすい場面作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としているサービスを当ホームで不可能となった場合は他のサービス利用を含め他の事業所へ相談する等の対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の残存能力に応じて調理の手伝いや洗濯物たたみ、掃除の手伝い等を一緒に行っている。ホーム外では花壇の花植えや水やり、畑の草取りを行っている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には家族交流会に参加して頂いたり来訪時には職員が中介し本人を交えて良好な関係作りが出来るように支援している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの方が来訪された時は話しやすいよう本人の居室でお茶を飲んで頂いている 本人の行きたい場所があればドライブや買い物、知人と話をする等して関係が途切れないよう支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し配席等の工夫や必要に応じ職員が仲介に入っている。行事やレクリエーション、余暇を談話室で過ごして頂く等利用者同士接して頂く時間を多く取り入れるように工夫している。難聴の方にも職員が仲介し会話のやり取りの援助に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス(契約)が終わっても、家族や本人から相談があれば必要に応じ対応し支援に努めている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中でご本人の希望や意向を聞き取り個々の情報、カンファレンスや申し送り職員間で周知している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から聞き取りを行ったり以前利用していたサービス担当者に連絡を取ったりし連携を図りながら把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に一人ひとりの日々に心身状態や言動、行動等を記録し現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い計画作成、更新前にはサービス担当者会議も同時に実施しご本人・ご家族の意向を取り入れた計画作成を行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添ったケアに対しては番号を付け個人記録に記入している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向に添って通院、買い物などに同行し柔軟な支援が出来るように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催事の観賞に出掛けたりホームの行儀に地域の方やボランティアの協力を頂き多くの方と関わりを持てるように努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣のかかりつけ医を持ち、家族と相談し専門医受診等も実施している		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の体調変化、バイタルを観察し、異変が生じた場合はかかりつけの病院看護師に連絡相談し適切な受診や治療を受けられるように支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は情報提供、早期治療、回復退院に役立つように速やかに行い、退院については早期退院に向けて医療関係者、家族と情報交換や相談に努め関係作りを行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	現在看取りは行っていないが、重度化や終末期については、かかりつけ医療関係者の説明を交えて家族との話し合いを行っている。又必要性があれば地域の関連機関への相談をするなど共にチームでの支援に努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え消防署の救命救急の講習を定期的に全職員は実施し応急手当、初期手当など実践力を身につけるよう努めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力を得て年2回昼夜を想定した避難訓練を実施しています。又町の避難訓練へも参加しています		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った声掛けを行っています。日々のケアに対して個人情報保護法に基づいて支援を行っています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の希望や思いを傾聴し自己決定出来るよう努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりの生活や時間のペースを把握し好みの番組や散歩、本を読む等本人の希望に添うよう努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまで行ってきた事や好みを本人や家族から聞き、自由に身だしなみや洋服選びが出来るよう工夫し、要望があれば美容室等にも行くなどの支援をしています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な物や好みの食べ物を面談時に聞き、楽しく食事をして頂くために、苦手な食べ物に代わる物を提供する等工夫している。職員と一緒に食材のしごしらえや盛り付け、食器の後片付けを行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日作った食事のメニュー表を見ながら栄養バランス等を考慮している。個々の不足している他の食べ物、飲み物は他の物で補い、常に把握出来るよう記録し支援している。町の栄養士による勉強会も行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の口腔ケアで義歯の洗浄や歯磨きを見守り、時には一部助するなど能力に応じた支援をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄の習慣や状況を記録にて把握しプライドに配慮した声掛けを心がけ本人の出来る範囲で自立に向けた支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握している。又排便を促す体操を実施し、個々に原因となることをカンファレンス等で話し合い、食べ物や飲み物などの工夫や予防に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	一人ひとりの気分や体調や考慮しプライドに配慮した声掛けを行っている。入浴日は決まっているが本人の希望があればいつでも入浴が出来るように個々の希望に添うよう努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣、睡眠状況を把握し睡眠が不足している場合は自室で休んで頂くよう声掛けしたり共有スペースに枕や毛布を用意し休んで頂いている。又散歩やレクリエーション等も含めた活動を心がけ夜間眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬管理しており、医師の説明や処方箋に従い副作用、作用、用量を理解し、症状や変化があった場合は速やかに医療関係者に相談し職員間の周知に努め必要に応じて一定期間の様子観察するなど症状と変化の確認に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中の楽しみ、職員と一緒に好きな歌番組をみたり買い物に行く、畑の収穫をする、イベントの参加、散歩やドライブ、食事外出、気分転換出来るように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に行く、花の手入れをしたい等希望に添い支援している。家族の方と自由に外出できるように支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族と事前に話し合い説明しホームでお小遣いを管理し、本人の希望があればいつでも出し入れが出来る状態にし、個々の能力に応じたお金を所持したり、使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があれば家族等に連絡がいつでも出来るよう対応し本人の希望に添えるよう支援しています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の温度や湿度形を設置しています。又季節に応じて飾り付けを利用者の方と一緒にするなど、楽しく居心地良く過ごせるような空間作りを工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを配置し個々が自由にくつろげる事が出来るよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の馴染みのある使い慣れた物などを聞き居室に置いて頂き、家族の写真や本人の趣味の物を飾ったり居心地良く過ごせるような工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には本人の写真や名前を付け、トイレにはわかりやすいように案内板を付けている。一人ひとりの残存能力を生かせるように出来ることやわかることを職員と一緒にして頂いた後は、必ずお礼の言葉を添え自身に繋がるような声掛けや工夫をしている		